

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

# 健康新聞

発行所  
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十六年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

## 悪は何故暴露するか

私は前々号に無神迷信の題名のもとに、公務員の汚職問題について詳しく書いたから大体分かったであろうが、要するにその根本は不正をする人の心理である。勿論人の目にさえ触れなければ、どんな悪い事をしてでも隠し覆せるといふ、いわゆる無神思想である。そこで今一層徹底して書いてみるが、なるほど右の考え通り悪が絶対知れずに済むとしたら、こんな旨い話はないから、出来るだけ悪い事をして儲けたほうが得という事になる。今日悪い事をする人間のほとんどは、そうした考え方であるのはいうまでもない。ところがいくら巧妙にやっても、いつかは必ず暴露してしまうというこの不思議さである。としたら彼等といえどもそこに気がつかない訳はなからうが、本当の原因がハッキリわからないがため、悪事を棄てかねるといふのが偽らざる心情であろう。

そこで私は、なぜ悪事は必ずバレるかというその原因を明らかにしてみるが、まず何より肝心な事は、なるほど人の目は誤魔化す事が出来ても自分の目は誤魔化せないという点である。どんなに人に知れないようにしても自分だけはチャンスと知っている以上、自分には暴露されている訳である。そうして一般人の考え方は、自分は社会の一

員としての独立の存在であつて、別段他には何らの繋がりがないから、何事も自分の思った通りにやれば一向差し支えはない。だから自分に都合のいい事、利益になる事だけを巧くやればいい、それが当世利口なやり方であるとしている。従つて、たまたま利他的道義的な話を先輩や宗教人などから聞かされても、上辺は感心したようにみせても、肚の中では何だバカバカしい、そんな事は意気地なしの世迷い言か、迷信屋の空念仏だ、ぐらいにしか思わないのが実際であろう。全くそういう人間こそ形にとられ精神的にはゼロではないから、人間としての価値もゼロといえよう。

右は現代人大部分の考え方をありのまま書いてみたのであるが、ではこういう思想の持ち主が果たして将来幸福であろうかという、例外なく失敗するのである。

ではなぜ失敗するかというと、前述のごとく悪は人には知れなくとも、自分だけは知つているのだから、この点が問題である。なぜかという点、どんな事でも人間の肚にあるものは何でもかんでも手に取るように分かる恐ろしい所がある。その恐ろしい所とは一体どこかというところ、これが霊界にあつて、現界でいえば検察庁のような所で、いわゆる閻魔の庁である。ところが悲しいかな唯物思想に固まった人間には信じられないので、たまたま人から聞かされても、そんなものもあるもんかと否定し少しも耳を傾けようとしな

い。この想念こそ悪の発生源である。この理によつて本心に悪を無くすとしたら、これを教え信じさせる事で、これ以外効果ある方法は絶対ない事を断言するのである。では閻魔の庁へなぜ知れるかという点、人間の魂とその庁とは霊線といつて現界の無線電波のようなものが一人一人に繋がつていて、一分の狂いなく閻魔の庁に記録されてしまふ。庁には記録係があつて一々帳簿へ載せ、悪事

の大小によつてそれ相応に罰するので、それが実に巧妙な手段によつて暴露させ現界的刑罰を加えるのであるから、この事が肚の底から分かつたとしたら、恐ろしくて少しの悪い事も出来ないのである。もつともその反対に善い事をすれば、それ相応な褒美を与えられるという、これが現幽両界の実相であるから、この世界は神が理想的に造られたものである。

これが絶対真理であつてみれば、これを信ずる以外根本的解決法はないのである。ところが現代はそういう霊的な事は、政府も有識者も盲目であるから、かえつて大衆に知らせるのを非文化的とさえ思つているのだから、困つたものである。そんな訳で、せつかくそれを分からせようとする我々の仕事も、迷信と断じて警戒するくらいだから、本当からいへば御自分のほうがよつ程迷信にかかつていたのである。その何よりの証拠は、これ程骨を折つても汚職などの犯罪は少しも減らな

いばかりか、むしろ増える傾向さえみえるではないか。それは単に表面に現われた犯罪を膏薬張り

で防ごうとしているのだから駄目で、容易に抜けられそうな法網を張つたり、誰でも破れるような取り締まりの堀で塞ごうとしていて、全然急所がはずれているのだから、その愚およぶべからずと

いいたいくらいである。しかも、これが文化国家

と思ひ得々として

いるのだからあまりに幼稚で、

現在は文化的野蛮時代といつてもよからう。

### 浄霊体験記

2ページ  
3ページ

- ゼンソクを通して浄化作用を知る…
- 入会して43年…この幸せを皆様にも
- 一枚の健康新聞で救われた人生…
- 浄霊によって腎臓の石が減少…

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございませう。

急性咳喘息

ゼンソクを通して浄化作用を知る…



香椎支部 野田尚徳(66)

私が新健康協会に御縁を頂いたのは、昭和五十年代に協会に入会した母の影響です。

私は平成三年、三十三歳の夏から秋にかけ、仕事や家庭でのストレスが原因で体の変調を感じ始めました。病院で診察してもらおうと、「急性咳喘息」ということで、吸入器を処方しました。しかし吸入器をいざ使用してみると、苦しくてむせてしまいました。この状況を母に相談をすると、「私は浄霊で救われたから、一度浄霊を受けてみたら…」と言われましたので、半信

半信ではありましたが、香椎支部へ出向きました。

一カ月ですっかり楽に…

支部では、先生とされていた女性の方から浄霊を受けましたが、症状を聞かれた後に力強い声で「大丈夫ですよ!」と言われた言葉がすごく印象に残りました。また、不思議なことに浄霊の間は咳がとて楽になったことを覚えています。

その後、「毎日浄霊を続けてみたら良い!」と言われましたので、続けておきますと日に日に状態は良くなっていきました。そしてある日、自宅で鼻血が出ました。私は驚きまして、そのことを先生にお話しますと「良かったですね」と喜ばれました。私は何が良かったのだらうか…とポカンとしていました。先生が「浄化作用によって体の中にある毒素が鼻血として体から排出されたのですよ!」と繰り返し解りやすく話をされました。

するとその次の日から、咳の出かたが楽になり、「浄化作用ということはこのようにことなんだ!」と納得しました。その後浄霊を続けると、二カ月程で喘息の症状はすっかり治まりました。

母はその間静かに見守ってくれて、この感動を「良かったね!」と言ってくれました。そして今後も浄霊を続けていきたいと思います。平成四年一月十九日に入会しました。この時も母は「入会出来て良かったね!」と言ってくれました。本当に嬉しく明主様に感謝申し上げます。母にも心から感謝いたします。

(福岡県福岡市)

ねんぎ・湿疹

入会して43年…この幸せを皆様にも



荒尾支部 塘田秀子(74)

私が新健康協会のことを知ったのは二十三歳の頃です。私の弟は幼い頃から体が弱く病院に行っていました。しかし状態は良くなり、悩んでいた時に母が協会のことを知人から聞き、浄霊を受けるようになりました。それからというもの、弟は浄霊でどんどん元気になっていきました。

その頃、弟とバドミントンをしていた私は右足をひねってしまいました。ブチツという音がした途端、立つことが出来なくなり、その場に倒れてしまいました。すると痛みが走り、足を上げることも出来なくなりました。私はどうしたらいいだろう…と心配していたら、母が「あなたも浄霊を受けてみては!」と浄霊を勧めました。私も弟の姿を見ていましたので、浄霊を受けてみようと思いました。すると、あれ程痛かった足が徐々に

良くなっていき、半年ほどで完全に良くなったのです。私はとても不思議な体験をした…と思うとともに嬉しさが込み上げてきました。これが初めての浄霊体験であり、心から有難く思いました。

それからは浄霊を受けるのが当たり前となり、結婚後、初めて妊娠した時に、子供たちにも浄霊をしてあげたい一心で入会もしました。この時が昭和五十六年、私が三十一歳の時でした。

神様に救って頂いた!

私は三人の子供に恵まれました。そして子供を通して浄霊の素晴らしさを体験しました。

これは三女の体験です。娘は一歳の誕生日前から湿疹が出始めました。すると徐々に湿疹が広がっていき、最終的には体全体に出ました。特に顔はものすごく、掻いては肌がガサガサになり、その上にさらに湿疹が出来るという状態でした。しかしそんな時でも食欲はありましたので、体力が落ちることもなく娘は元気に遊ぶことも出来ていました。

夜中に痒みがひどく、ぐずって大変な時もありましたが、毎日、夫と交代で浄霊をしたことで次第に良くなっていき、一年が過ぎた頃には、あれほどひどかった顔もとてもきれいになりました。

現在娘は仕事に育児に忙しい毎日を送っている立派な二児の母親になっています。明主様に奇跡を頂きまして感謝申し上げます。

◇ こうした家族の体験の他にも、様々なことで明主様から守って頂き安心と

感謝の日々を過ごしています。

私が四十歳の時には、手のしびれが原因で車をやぶに突っ込ませてしまったことがありました。事故にならずに済んだのですが、その場所が崖の上だったため、一歩間違えば崖から落ちていました。私は「神様に救って頂いた!」と心から感謝申し上げます。

入会してから四十三年が経ちますが、現在も元気に体を動かしています。ぜひ一人でも多くの方が、明主様にご縁を頂かれようとして願っております。

(熊本県荒尾市)

浄化作用

人間には体内の毒素(=汚物)を排除して健康を促進しようとする働きがあります。これを称して自然良能力と言います。

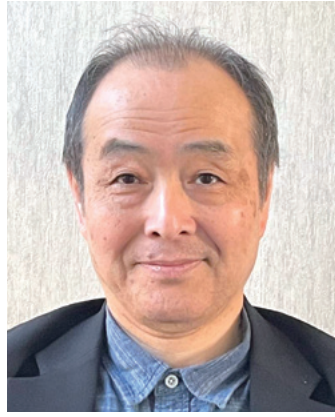
例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が汗やタンとなって排せつされるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

鼻づまり・頭痛

一枚の健康新聞で救われた人生…

大分支部 山崎欣也 (63)



私は元々、幼少期から身体が弱く、よく風邪や蕁麻疹など病気がちで病院にかかることが多かったです。普段は蓄膿症みで鼻づまりの状態でしたので、薬を沢山もらって飲んでおりましたが、気分は一向に良くなり、幼いながらも病院に不信感を抱いておりました。十五歳の時、誤ってトラクターの下敷きとなり、腰を強打したこともありましたが、幸い骨には異常がなく、直ぐに退院できました。しかし、その後は疲れやすく、体調はすぐれませんでした。

そんな時、アパートのポストに健康新聞が入っていたので読んでみると、その内容に驚きました。そこには、酷い病気や怪我から救われた人の感謝の言葉が実名で綴ってありました。「こんな事があるの？もしかしたら自分も治るかも知れない…」と思い、すぐさま近くの佐世保支部に伺い浄霊を受けました。すると、いつも鼻づまりで息がしづらかったのですが、スーッと呼吸できるようになり、気持ち良くなりました。支部の先生から薬毒のことや浄化作用について、いろいろとお話を聞きました。当時の私には本当の意味が理解出来ませんでした。

月日は経ち、二十三歳で大分に帰り結婚しましたが、妻も病気がちで胃とそれい部が痛むようになりました。ひたすら病院に通いましたが治らず、原因さえ解らない不安な日々が続きました。そんな折、ふと健康新聞のことを思い出し、大分支部へ伺いました。支部の先生より、薬毒や浄化作用のこと、入会すると自分でも浄霊が出来ることを聞き、昭和五十九年二月、感激の中、妻と一緒に入会しました。それからは家庭でも浄霊を受けられるようになり、おかげ様で、妻のそれい部の痛みも一週間で良くなりました。その後、一男二女の子供も授かり、歓喜に満ちた日々を過ごさせて頂いております。

激しい頭痛が消えた…

平成元年八月、お盆の里帰りで長崎へ帰省の折、妻が急に右側頭部の激痛に襲われ、立っておられない状態で、明かりが目に入ると、増々痛みが酷くなるようでしたので、早速浄霊をしま

した。だいぶ楽になりましたが、その後も痛みが続いていましたので、近くの佐々支部へお伺いして浄霊を受けました。酷く痛んでいた状態でしたが、支部で浄霊を受けると今迄の痛みが嘘のようになくなりました。私はその光景を目の当たりにして、明主様の偉大な御力に、只々驚きと感謝の気持ちで、何とも言えない嬉しさと共に、思わず目頭が熱くなりました。それから妻も元気になり、毎日忙しく過ごしています。

浄霊の有難さに感動…

私は仕事に励んでいた三十歳の時、バイクでの通勤帰り、前方不注意の軽自動車に跳ねられ、脊髄を二箇所骨折する大怪我を負いました。事故当時の記憶は一切ないのですが、医師からは「二生涯、車椅子の生活になることを覚悟して下さい」と妻に言われたそうです。その後、麻痺は残りましたが、浄霊のおかげで、杖を使って自分の足で歩ける迄に快復しました。病院では、「胸椎の骨折ゆえ手は動かなくなると言われておりましたが、なんの支障も無く動かしています。まさしく浄霊のおかげです。頭に手をやり浄霊しますと、不思議と骨が繋がっていきような感覚がありました。私は浄霊の有難さに感動し、涙が止まりませんでした。入院は九カ月間でしたが、手術等の必要もなく自然に快復を待つことが出来ました。

明主様、数々の御守護を賜りまして、本当に有難うございました。これからも、一人でも多くの方に浄霊の素晴らしさをお伝えしていきたいと思っています。(大分県大分市)

ネパール

浄霊によって腎臓の石が減少…

ネパール・キルティプール支部 ビスヌ・マハルジャン (67)



私は二〇〇四年、四十七歳の時に体調の変化があり、腎臓が苦しくなりました。すぐに病院へ行き検査したところ「腎臓が腫れている…」との診断でした。私は医師の言われるままに薬を多く服用しましたが効果がなく、他の病院でも検査をしましたが良くならず、四、五カ月間腎臓が痛み続けました。一体何が悪いのだろう…と悩んでいましたので、二〇〇五年、医師からアドバイスをもらい超音波検査を行いました。すると、「腎臓に石がある…」との診断でした。

私はどうしたら良いだろう…と思い家族に話したところ、家族から「新健康協会で浄霊を試してみよう」と勧められました。私は早速支部に行き浄霊を受けてみました。本当にこの方法で良くなる

のだろうか…と思いましたが、浄霊を受けていると痛みが落ち着きましたので、このまま続けてみることにしました。

ある時、左側の肋骨の下がひどく痛み、お腹が破裂するのではないかと感じるようになりました。これは「浄化作用で毒素が出ようとしている…」との話も聞きましたので、私はその日から数日間、一日二回浄霊を受けました。するとその痛みは徐々に小さくなり、痛みの期間も少なくなりました。日毎に状態は良くなっていましたので、二〇〇七年に二回目の超音波検査を行うことにしました。すると医師は驚いて「腎臓の石が九割減少し、腎臓は完全にきれいになっている…」と言いました。私はとても嬉しく、浄霊の素晴らしさを実感しました。

明主様の浄霊を知ってから、わずか一年半で症状が良くなり、心から感謝しております。(ネパール・キルティプール)

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

# 自然農法

## 自然農法体験談



田川支部  
おた 太田シズ子 (73)

私は、約16年前に無肥料・無農薬の自然農法で出来た野菜の味に感動し、自分でも自宅の庭に約28・5㎡(約8・6坪)の畑を作り、自然農法を始めて6年になります。

私の畑の土は、見るからに固かったのですが、枯れた葉や草などを漉き込んで行くうちに、色も畑の土らしくなっていました。以前は土の上を歩いてても力チカチだったのが、足が軽くズボツと入るくらいに柔らかくなってきて、土がとても良くなってきた事を実感しています。私が畑で作業していると、その様子を見た近所の方から声がかかったりするので自然農法の話をして、興味がある人にはこの畑で穫れた野菜の種をあげますと大変喜んで持って帰られ、そのやり取りがとても嬉しく感じています。

昨年はグリーンピース、スナップエンドウ、ササゲ2種、枝豆、落花生、オクラ、サツマイモ3種、トマト2種などを作りまして、全体的には平年並みの出来でしたが、落花生、ササゲはとてよく出来ました。

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

昨年12月3日の新健康協会総本部で行われしました自然農法展示会に、ささげ小豆、さつま芋、落花生を出品させて頂きました。今回は大根、ニンジンなどの根菜類や葉物類を植えてチャレンジしてみたいと考えております。

ここ2年の間に新しく自然農法を始めた仲間が数名おり、お互いに作り方や採種などについて話し合い、種の交換などのコミュニケーションが出来るとても楽しく、張り合いのある生活を送っております。同じ種類の野菜でも、無肥料・無農薬は変わりませんが、細かい部分ではそれぞれに工夫しながら違うやり方をしておりますので、それがお互いにとっても勉強になり、更なるやる気に繋がっております。

これからも明主様の自然農法の実行に精進し、その仲間の方々と共にこの素晴らしい農法普及のために努力して参ります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。  
(福岡県田川郡)



畑に育ったささげ小豆

## 美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

### 小林古径 《蘭》

「ここにあるこの盆一つにしても、ちつと見てみると生きてゐる気がする。叩けば音がするし盆には盆の生命のあることがわかるのだ。ところが、それを絵にすると、なかなか音がしない。音のする盆をかくのは大変だ。写真といふのも、そこまで行かなければ本当の写真ではない」  
これはこの作品《蘭》を描いた小林古径の言葉です。

古径は明治十六(一八八三)年新潟の元高田藩士の家に次男として生まれました。幼くして次々と肉親を亡くすという境遇に置かれますが、地元で絵を学んでいた古径は十六歳で上京し、挿絵画家として活躍していた日本画家、梶田半古の門に入ります。半古のもとで歴史画を中心に制作、発表を行い、日本美術院と日本絵画協会共催の共進会展で多くの褒状を受け注目を集めました。

半古が重んじた「写生」と「画品」、そして色のことは、古径の画業を基盤として支え、丁寧な教え方、絵への向き合い方など、半古の人格も古径の画家としての生き方に大きな影響を与えています。文字通り手取り足取り細やかに指導し、一通り描けるようになったのちにはむしろ干渉せず、それぞれの独自の画境を切り開くべきとされたと、古径は師についての回想を残していますが、冒頭に引いた言葉にも、絵における「写真」というものの理想を自ら見つけ出した実感に溢れており、言葉だけでもその情景が思い浮かぶようです。  
新進気鋭の画家たちが結成した紅児会に参加し、古典技法をいかにして現代に生かすか、熱心な研究発表を続け、大正三(一九一四)年には三十一歳で第一回再興日本美術院展で入選、同人

に推挙されます。その後は日本美術院展が主な作品発表の場となりました。大正十一(一九二二)年には日本美術院留学生として一年にわたってヨーロッパに滞在し、各地の美術を見学したほか、大英博物館で伝顧愷之筆「女史箴図卷」の模写を行い、線描の力に感銘を受けます。帰国後は日常的な題材にも取り組み、清澄な美しさが伝わってくるような画風をさらに展開させていきました。本作もすうりと伸びた墨色の葉、緑と赤がじわりと染める蘭の花が上品に咲き、爽やかで、こちらの背筋の伸びるような、心地よい緊張感に満たされています。

解説 松田愛子



### 晴明会館

「暮らして花鳥風月」後期展  
期間…1月7日(日)～5月14日(火)

※晴明会館お問い合わせ ☎(092)661-1555

健康新聞についてのお問い合わせは  
(092)661-1531まで